

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 佳作>

「夢のたまご」

西田郁香

私はまだ卵だ。自分の未来は想像がつかないし、どんな職業に就いて、どんな生活をするのかもわからない。

しかし、卵は卵なりに夢を持っている。大きな夢から小さな夢までさまざまだ。その中で一番大きな夢は「障害者、高齢者の方がいきいきと生活できるよう、手助けをすること。」直接的でも間接的にでもこの日本が、地球が、どんな人でも過ごしやすい社会にしたい。この夢を叶える時、私は卵の殻から飛び出す時だと信じている。

私は少しずつ卵にひびを入れている。小さな目標を立て、それを実行するように心がけている。夢は自分からとても遠くにあり、目標は夢に向かう途中にたくさん立ちはだかっている物だと思う。つまり、目標をクリアしていかなければ、いつまでたっても夢を叶えることはできないのだ。例えば、「宿題を一時間で仕上げる。」「次の試験で前よりいい点数をとる。」など小さな目標だ。それを一つずつクリアしていく。そうすると、卵にひびがはいっていくのだ。自分が殻の外へ飛び出せるように。

私は、殻の外の世界を知らない。自分の成長した姿も考えられない。ただ、一つも不安はない。むしろ希望を抱いている。初めはみんな卵だ。誰も自分の未来なんてわからない。だから、みんな夢をみるのだと思う。

卵の殻の外には、どんな未来が広がっているのだろう。私の目の前には、どんな道がつづいているのだろう。その道を、どうやって歩いていくのだろう。今からとても楽しみだ。